

児童虐待防止

支援者のための ケースワーク カウンセリング 講座 2016

児童虐待の原因は、母子の「愛着関係」が成立していないこと

児童虐待は事故や偶発の出来事ではありません。それは継続的な異常事態であり、背景には必ず原因があります。原因を知るには、まず、「普通な家庭」では虐待は起こらない、というあたりまえの事実を理解することから始まります。普通な家庭とは「母と子の愛着関係が成立」している家庭です。愛着関係とは、母親が子の感覚や感情を我がことのように感じること、例えば、子が寒そうにしていれば親も同じ寒さを感じ、子が美味しそうに食べていれば笑みがこぼれる、そんな「あたりまえの」母子の関係です。愛着関係があれば、母親は子の痛みを自分の痛みとして感じてしまうので、虐待は起こりません。逆に、この「あたりまえの」愛着関係が成立していない家庭に、虐待が起こります。当講座では「愛着関係不成立」の原因を3つに分けて、詳しく検討します。

講義1 虐待の原因は愛着関係の不成立

- A. 虐待の4つの類型(1. 身体的虐待 2. ネグレクト 3. 心理的虐待 4. 性的虐待)の具体例を分析し、これらに共通な母子関係が、愛着関係の不成立＝「心理的ネグレクト」であることを学びます。
- B. 愛着関係とはどういうものかの一般的な理解(Bowlbyら)を知り、ついで、虐待の原因である、
- C. 愛着関係が成立しない理由を3つに分けて考察します。①親に軽度知的能力障害がある場合、②親に精神障害がある場合、③母親に被虐待体験がある場合です。

講義2 親の知的能力障害と虐待の関係

- A. 母親の軽度知的能力障害 現場で出会う母親像や厚生労働省の虐待死統計のメタ分析からわかる「母性の欠如」、「親としての無責任さ」、「養育能力の低さ」、「コミュニケーション能力の低さ」、「一方的な主張」などの多くは、軽度知的能力障害に起因しますが、見逃されています。
- B. 母親の軽度知的能力障害のレベルとその虐待内容との密接な関連について学びます。

講義3 「虐待の世代間伝達」のように見えるもの

- A. 虐待の心因説 虐待は心因として世代間伝達すると信じられていますが、虐待は母親の養育能力の低さによるものがほとんどで心因によるものは多くはありません。連鎖のように見えるものは、①母親の軽度知的能力障害の遺伝的背景、②精神障害の遺伝的背景、そして、③被虐待体験をもった母親(＝「被虐ママ」)の子育て不安の3つが混在したものです。心因だけの「虐待の世代間伝達」はありません。
- B. 「被虐ママ」の心理的理解 虐待と誤解されやすい「被虐ママ」の子育て不安、子への恐怖感について学びます。

講義4 被虐待児の不応問題 被虐待児は幼児期～小学校低学年で発達障害と誤解され、中学生以上では統合失調症などと誤診されます。彼らが集団に溶け込めなかつたり、社会や大人をひどく怖がるからです。

- A. 反応性愛着障害・脱抑制型対人交流障害：被虐待児に特有の対人関係の持ち方が発達障害と誤診されます。
- B. 被虐待児が誤解されやすい発達障害・精神疾患：発達障害児と被虐待児の鑑別方法を学びます。
- C. 普通な家庭で育った支援者が被虐待児を誤解してしまう心理：「試し行動」等の理解について学びます。

講義5 「被虐ママ」の子育て支援 虐待を受けて育った女性が子を持つと、育児に独特の不安や困難を感じます。あやしてもらった経験がないので子と遊べません。子を恐れ、子を愛せないと自分を責めます。

- A. 「被虐ママ」を知る B. 「被虐ママ」の子育て不安と子どもを愛せない心理
- C. 「被虐ママ」の回復と支援方法

講義6 子と母を守るためのケースワークの実例(支援方針の立て方)

- A. 母親に軽度知的能力障害がある場合 母親と友好的な関係を保ちながら、子を直接支援します。助言や支援を受け容れない母親、拒否的な母親とどうつきあい、子を守るのかを検討します。
- B. 母親が正常である場合 母親の心理的な支援を中心に行うと、母親は子との愛着関係を取りもどします。

- 講師 高橋和巳 野口洋一 箱崎幸恵
- 日時 奇数月の第2金曜日 18:30 - 21:30 全6回
2016年5/13 7/8 9/9 11/11 2017年1/13 3/10
- 場所 東京学院ビル3階教室(JR水道橋駅西口徒歩1分)
- 定員 60名(先着順) ● 参加費 全6回 30,000円